

# 守大助さん面会記 えん罪・仙台北陵クリニック事件

## えん罪・仙台北陵クリニック事件

9月6日（金）江川さん、菅原さん

千葉駅西口で江川さんと待ち合わせた。一人来られるかと心配しましたが時間通りに見え、ほっとして無事刑務所に着きました。

面会待合室で待っていると刑務官に「ちょっと」と呼ばれ、「支援者ですよ」と再び確認され、「取材ではありませんねとね？」と念を押され「はい、支援です」「ではここに取材ではない事を一筆書いてください」と、暫くして面会の呼び出しがあり、面会室へ。紹介する間もなく大助さんは事件のこと、病院の経営状態、自白の真相等々、矢継ぎ早に話しました。

実は江川さんも事前に聞きたいことをメモを持参してあったのですが、質問をする間もない状態で、まるで機関銃の様に20分と言う時間内でなるべく多くの事を話したい気持ちが伝わって来ました。

私が面会する前に江川さんから、メモしてほしいと言われていたので速記しました。東京まで一緒に帰り、いろいろな事件のことを話し合いながら帰りました。

菅原 救・神）、江川さん 差入れ（週刊誌 3冊）



江川さんと菅原さん

守大助さん（当時29歳）が勤務していた当時の医療法人北陵クリニックに於いて、患者5人の点滴に筋弛緩剤を混入したとして2001年に逮捕。仙台地裁・高裁・最高裁で「無期懲役」が2008年2月に確定。同年7月から千葉刑務所に服役中。

大助さんには動機がなく、患者の容体急変は筋弛緩剤の薬理効果と矛盾しており、科学鑑定でも否定されています。試料は鑑定時に全量消費 廃棄され、再鑑定ができません。

2012年2月10日仙台地裁に再審申立を行いました。

9月13日（金）両親

暑いのかタオルで顔をぬぐいながら笑顔で入ってきました。直ぐに先日面会して頂きました江川さんお話しになり、宮城にいたときに手紙を出したことを覚えていてくれて、気さくな方で、思いを気兼ねなく話すことが出来たと大変喜んでいました。

10月に、大運動会が開かれるので怪我が心配だったので「無理をしないように」と話すと大会の花である職場対抗リレーは若いときに競技会にいっぱい出てきたので若い人に譲り自分は球転がしに出るんだと笑っておりました。

～ ～ ～

御両親は千葉 成田の支援者の所に行き、14日は救援会千葉県本部に参加されて、台風に合わせて宮城に夜中に帰られたようです。



あなたからのお便りをお待ちしています！  
大助より

● 10月の面会日 9日、18日両親、29日 ● 1月の面会、15日

◆面会申し込み／救・神奈川県本部 電話050-3310-1368／fax045-663-7953

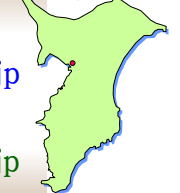
E-mail [kyuenkai-k2@clock.ocn.ne.jp](mailto:kyuenkai-k2@clock.ocn.ne.jp)

◆発行：救・千葉県本部 Tel043-251-7351 fax043-251-4159

E-mail [kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp](mailto:kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp)

激励先 〒264-8585 千葉市若葉区貝塚町192 守大助さん宛 2013年10月 62号

千葉県だよ！



## 9月19日(木)糸島さん、斉藤さん、

秋晴れの千葉刑務所

「これは明らかにな冤罪事件ですよ」相模原協同病院での日大 押田教授が講演会で発言した記憶に残る言葉だ。

北陵クリニック筋弛緩剤事件の認識を冤罪だと確信した瞬間だった。救援会千葉県本部の戸賀さんと「東葛の会」の斉藤さんの3人で支援者として私は初めて大助さんの面会に行った。

何を言って励ましたらいいのだろうか)

笑顔で現れた大助さんと今まで長い交流のある二人との会話は滞りがなく私が言葉を挟む隙もないほどの短い20分間だった。

8月31日～9月1日の群馬 関東交流会で両親の様子、お母さんとは同室で沢山お話が聞けたことを伝えました。

そもそも事件は無かった。私も一日も早く大助さんに白衣を着て医療現場で働いて貰うために力を注いで行きたいと決意しました。

追伸 千葉刑務所の売店で購入した婦人靴を履いて毎日歩いています。

**糸島スミ子** (救: 相模原) **週刊誌3冊 差し入れ。**

一年ぶりの面会となりました。日差しは強いものの、日陰に入ると蒸し暑さもなく涼しく感じられました。

大助さんは、ブルーの半袖半ズボンの出で立ちで面会室に来られ、ようやく秋らしくなり、ほっとした様子でした。

この間、仙台にご両親を訪ねて小説を書くための取材を重ねてきました。

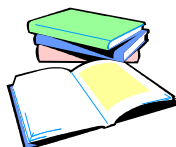
大助さんは「母は泣いていなかったか」と、心配されていました。

大助さんの生き立ちや、看護師を目指した動機、ご両親の思いなど、聞かせて頂き、大助さんが北陵クリニックに夢と希望を抱いていたことが、印象深く心に残りました。事件の概要とその背景を中心に短編を一つ書いたので、次は長編に挑戦して冤罪をつくる裁判の不当性を追求していきたいと思えます。

『民主文学』という雑誌に、掲載予定ですので、是非、お読みになってください。

ペンネームは橘あおいです。

**斉藤みゆき** (東葛の会)



## 群馬・交流会で 茨城&東京の支援者



## 9月19日(木)

今年は5回目の面会で初めて気がつきました面会室の壁に花が飾ってありました(造花)。ここ2～3日は抜けるような青空と白い雲が浮いて首が痛くなるほど見上げていると、知らないおばさんが気持ちがいい空だねと一緒に雲を見ていました。

この青空を大助さんに壁の外で見せてあげたいと思いました。

久しぶりに日常の生活のことを大助さんに聞く『今日の朝ご飯は?』、大助さんは「納豆」がおかず、昼は「月見うどん」、ご飯は7割が米、3割が麦。

今年の暑い夏はアイスを食べましたか? 棒状でビニール袋に入った物を食べたそうです。昔のキャンデーかな?を私は想像しました)

## 戸賀

## 千葉刑務所の公開は1月10日(日)

当日は大変賑わいで千葉駅からバスで来るのがいいそうです。所の中も見学できます。

